

日本銀行

前帯広事務所長

現金金融機構局長考査役

齊藤 徹



忘れられない景色がある。然別湖（鹿追町など）のナイトツアーに参加したときのことである。車を降りて真っ暗闇の中を湖のほとりまで進み、目が慣れてくると、満天の星と湖面に反射する星空が視界いっぱい飛び込んできた。足元が暗いこともあって、突然、宇宙空間に放り投げられたような感じがした。気持ちが落ち着いてくると、静寂の中に遠くから動物たちの

鳴き声が聞こえてきて、童話の中の世界にいるようなとても幻想的な気分になった。

十勝に赴任してからの2年間、日本銀行帯広事務所では、銀行券の発行・還収、金融経済に関する情報収集・発信、金融知識の普及活動を通じて、十勝の人々が安心してお金を使うことができる環境づくりに取り組んできた。新しい銀行券への切り替えは円滑に進み、旧札を見ることが少なくなった。金融経済

の調査では、2年前から「十勝の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している」との判断を変えていないが、外部環境が厳しさを増す中において、十勝経済の底堅さが下支え効果を発揮していると解釈でき、金融知識の普及に向けて、学校等に赴いて出前授業を行っており、当事務所への講師依頼も少しずつ増えてきた。ただ、その一方で、SNSを使った特殊詐欺（金融犯罪）の被害が引

この間、日本銀行は、24年以降、金融緩和度合いを5回にわたって調整し、政策金利は1・0%と31年ぶりの水準になった。「金利のある世界」になり、国債市場の機能度は改善し、人々の物価観も変化した。多くの企業で賃上げが行われるようになり、2年前、3万円台だった日経平均株価は7万円台になった。

個人的には、十勝で農業生産者の方々と接する機会を通じ、ほんの少しだが、課題や悩みを知ることができた。これまで以上に宇宙産業に興味を持つようになった。十勝の歴史を知り、豚丼の味を知り、丁寧で作られた野菜のおいしさを知った。記録的な大雪と猛暑とちよつとした地震で、東京の知り合いから合計3回、お見舞いメールが来た。足寄動物化石博物館や麦感祭（音更町）など、観光施設やイベント等で買い集めたTシャツは19枚に上り、読んだ本は45冊になり、そして、以前に比べて牛乳をよく飲むようになった。

過ぎ去りし日々

かちまい論壇

き続き見られている。さらに、2025年の金融リテラシー調査結果を見ると、北海道は、金融経済教育を受けたと認識している人の割合が、47都道府県中32位と3年前の24位から低下したほか、正答率順位は33位から36位に低下する残念な結果となった。

個人的には、十勝で農業生産者の方々と接する機会を通じ、ほんの少しだが、課題や悩みを知ることができた。これまで以上に宇宙産業に興味を持つようになった。十勝の歴史を知り、豚丼の味を知り、丁寧で作られた野菜のおいしさを知った。記録的な大雪と猛暑とちよつとした地震で、東京の知り合いから合計3回、お見舞いメールが来た。足寄動物化石博物館や麦感祭（音更町）など、観光施設やイベント等で買い集めたTシャツは19枚に上り、読んだ本は45冊になり、そして、以前に比べて牛乳をよく飲むようになった。

2年前と変わらないものがある。十勝の人々は明るく前向き、という最初に受けた印象は、いまでも全く変わっていない。忘れられない景色があり、忘れられない味があり、忘れられない人たちがいる。

十勝を去るに当たり、改めて皆さまに感謝申し上げたいと思う。本当にありがとうございました。

◇ ◇

※齊藤氏は22日付で異動することになりました。